

## 活性化モデル商店街の概要

### 商店街名：本町発展会

#### ●キャッチフレーズ

「輝く本町」「誇りある本町」をもう一度

### ◎商店街の将来ビジョン

#### 【現状】

西尾市中心市街地はかつて「六万石城下町」の商業地として栄えたが、現在ではアーケードは取り壊され、店舗数や通行量が激減するなど繁栄期の面影はなくなってしまった。

#### 【課題】

本町発展会では、歩行者天国（城下町マーケット）の開催や情報誌の発行など、西尾城下町という地域資源も活用したブランディングに取り組んできたが、開催日には一定の集客はあるものの、通年において各商店の顧客が増えているとは言い難く、イベントに訪れる若い年齢層をいかにして商店街の顧客としていくかが当面の課題となっている。

#### 【対策】

- ・ 城下町マーケットを入り口とした集客層を「ファミリー」「高齢者」とし、三世代に長く愛される商店街を目指したプランニングにマイナーチェンジする。イベント会場に子どもたちが楽しめるコンテンツを設けることで、「西尾の中心地」で思い出をつくってもらい、将来の顧客へと結びつける。また、子どもと一緒にその父母や、本町を懐かしむ祖父母らにも訪れてもらえるよう企画していく。
- ・ 個店が賑わいのあったころの商業者としての誇りを取り戻し、商業スキルや売上を向上させることを目的に、加盟店を対象に「まちゼミ」のような企画も行っていく。

### ◎具体的に取組む事業内容

#### ○城下町マーケット（28年度～32年度）

出店のほかに子どもの遊び場などを設置

#### ○子ども商店街（28年度～32年度）

近隣小学校と連携し、ホコ天会場で子どもにお店を体験してもらう。

#### ○空き店舗対策（28年度～32年度）

#### ○本町版「まちゼミ」（29年度～32年度）

#### ○三世代交流事業（31年度、32年度）

町内会と連携し、城下町マーケット内又は空き店舗に地域住民の交流スペースを設置